



SASHIKI

Southern Avenue Seaside-story

風は海からやしの並木道

さとうきび畑をぬけ

丘を吹き上がり

小高い山裾野をいっきに駆け上がってゆく

360度の世界で子供達たちの明るい声が聞こえることがある

空気が澄んでいるのだろう

おきなわ南部 佐敷町

風の通りぬける町がある



佐敷町長 津波元徳

発刊によせて

佐敷町は昭和五十五年六月一日に町政施行をしてから、平成十二年六月一日をもって二十周年を迎えました。これまで多くの町民、関係者皆様の創意と熱意により、町としての機能の強化が図られ、美しく豊かな自然環境と永い伝統に培われた文化を基礎に都市化や都市近郊型農村として発展してまいりました。

いま、佐敷町は二十一世紀初頭の町の将来像を「夢・花・風とシュガーホール」と掲げ、シュガーホールを活用した音楽による町おこしに力をいれているところであります。また、マリントウンプロジェクト計画の推進、ヘルシーリゾート構想などの主要プロジェクトの実現による町づくりを進めております。

今後とも、住民のみなさんと共に、豊かな自然と文化の調和を大切にしながら、新たなまちづくりに取り組んでまいりたいと考えております。

ここに、佐敷町の主な概要を取りまとめましたので、本町の現状にご理解をいただき町勢の発展のためにご指導、ご協力を賜りますようお願い申し上げます、ご挨拶にかえさせていただきます。

町勢要覧 2001

CONTENTS

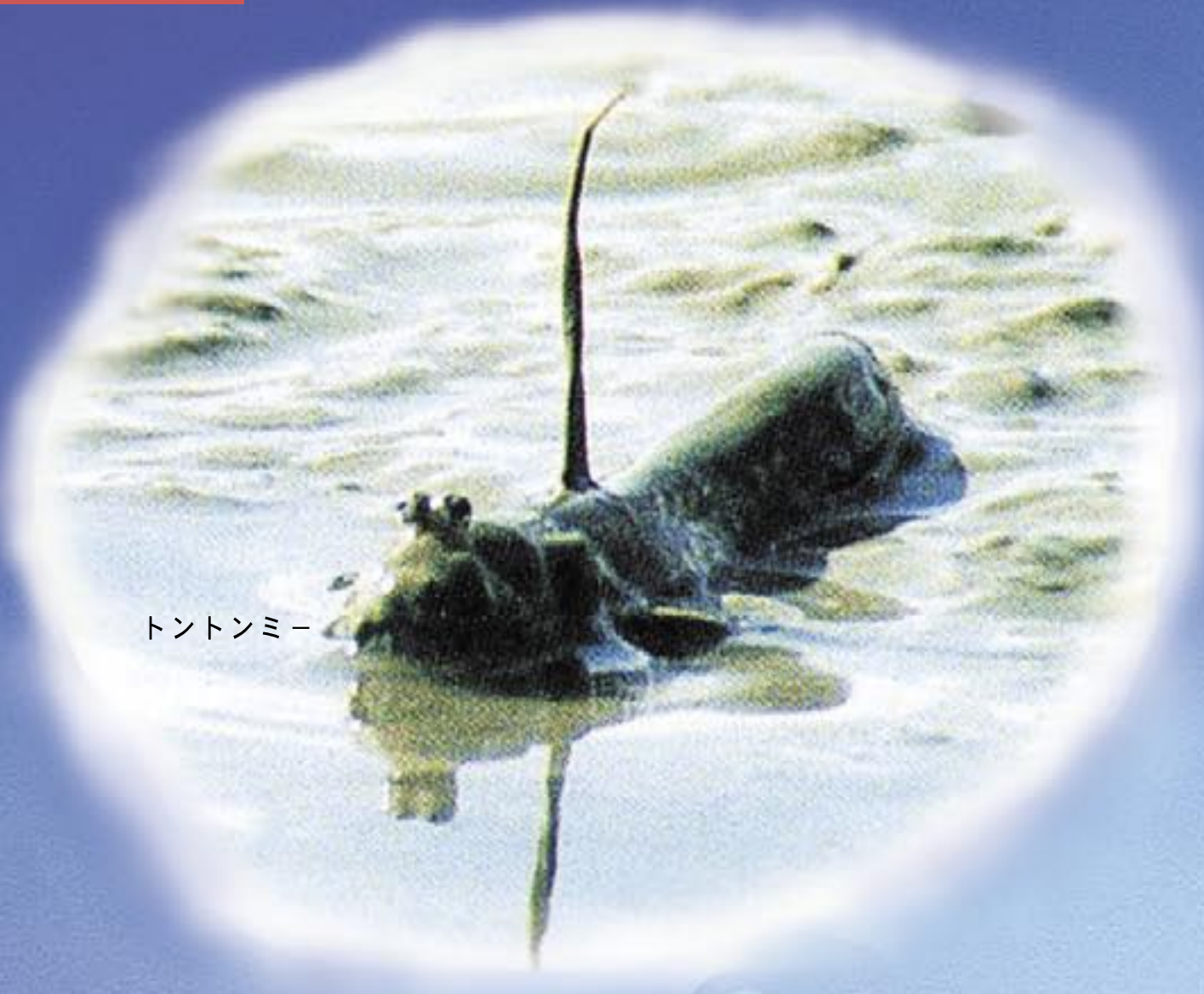
夢・花・風とシュガーホール



目次	1
発刊によせて	2.3
佐敷町イラストマップ	4.5
行政	6.7
町議会	8.9
マリンタウンプロジェクト・ヘルシーリゾート構想	10.11
保健衛生・環境衛生	12.13
社会福祉・生涯学習	14.15
佐敷町文化センター(シュガーホール)・文化行政	16.17
学校教育	18.19
農・漁業／商工業	20.21
公園	22.23
名字紹介／津波古・小谷	24.25
新里・兼久・佐敷・手登根	26.27
伊原・屋比久・外間・富祖崎	28.29
仲伊保・新開・つきしろ・県営新開団地	30.31
県営新開第二団地・県営仲伊保団地・佐敷音頭	32.33
主要施設電話ガイド・佐敷町町民憲章	34.35



トントンミー



シオマネキ





- 35 佐敷小学校
- 36 佐敷町文化センター
シュガーホール
- 37 佐敷郵便局
- 38 佐敷町役場
- 39 与那原警察署佐敷出張所
- 40 佐敷公民館
- 41 東部消防佐敷出張所
- 42 町立第2保育所
- 43 富祖崎緑地公園
- 44 富祖崎地区学習等供用施設
- 45 富祖崎公園
- 46 外間公民館
- 47 仲伊保集落センター
- 48 佐敷マリーナ
- 49 屋比久児童公園
- 50 伊原公民館
- 51 屋比久農業構造改善センター
- 52 伊原農村広場
- 53 手登根農村広場
- 54 手登根地区学習等供用施設
- 55 佐敷グスク
- 56 佐敷ようどれ
- 57 つきしろ児童公園
- 58 つきしろ公民館



佐敷町イラスト

主要施設等

- ① 馬天三叉路
- ② 馬天自動車学校
- ③ 馬天児童公園
- ④ 佐敷・中城漁業協同組合
- ⑤ 佐敷町商工会館
- ⑥ 馬天港
- ⑦ 町立第1保健所
- ⑧ ひまわり児童館
- ⑨ 新開公民館
- ⑩ 沖縄メディカル病院
- ⑪ 新開公園
- ⑫ 新開球場
- ⑬ 新開児童公園
- ⑭ 新開都市緑地公園
- ⑮ 農村婦人の家
- ⑯ 老人福祉センター
- ⑰ 佐敷町・知念村教育センター
- ⑱ 津波古公民館
- ⑲ 普天間病院
- ⑳ 津波古児童公園
- ㉑ 馬天小学校
- ㉒ 小谷農業構造改善センター
- ㉓ 特別養護老人ホーム小谷園
- ㉔ トンネルガジュマル
- ㉕ 沖縄厚生年金休暇センター
- ㉖ 新里農村広場
- ㉗ 国道331号
- ㉘ 佐敷勤労者体育センター
- ㉙ つきしろ学園
- ㉚ 県道137号線
- ㉛ 兼久公民館
- ㉜ 佐敷中学校
- ㉝ JA島尻東
- ㉞ 佐敷幼稚園



伝統文化の保護・継承

佐敷の自然、歴史、文化は本町の財産であり、心のよりどころでもあります。こうした地域の文化は町民のアイデンティティーに大きく関わるものであり、個性ある地域づくりを図っていく上での基盤となるものです。

本町は琉球史において初めて琉球を国家的に統一した英雄尚巴志生誕の地でもあります。御獄やグスク、佐敷独特の言葉（方言）、伝統文化の継承、組踊の復活など様々な伝統文化の保護継承活動を行っています。また、本町には県または町指定の有形、無形文化財が十六件あり十四件に対し保護助成も行っています。

市街地の都市化傾向や町民生活の多様化に伴い、地域住民の共同体意識が薄れつつあります。しかし、地域文化の振興を図り、歴史と文化の薫りあふれる町づくりのために、各自治公民館における地域活動や生涯学習と連携した地域文化活動及び婦人会、老人会、青年会、PTA連合会等による地域ボランティア活動等の一層の活性化を図るとともに、町内の人材活用を検討し、人間性豊かな地域コミュニティの形成に努めます。地域の各文化活動の集結として「さしきまつり」「さしき文化まつり」はフェスティバル形式で定常化していきます。

文化財は長い歴史の中で形成された民俗（民族）文化を理解するための貴重なものであり、その保護・活用を図り、後世に継承する事は行政の大きな役割の一つです。



旧暦六月二十五日に行われるミルク（弥勒）行列



勇壮な演舞「ティンペー・カマンティ」



「アマンチュー」



尚巴志王の祖父佐銘川大主ほかが合祀されている「佐敷ようどれ」

シュガーホールと文化の町づくり



佐敷町文化センター・シュガーホールは、平成六年に町民の生涯学習、芸術文化活動の拠点として誕生しました。

運営が厳しい公共公益施設が多い中において、シュガーホールの様々な事業展開による着実な成果は、公共施設の有効活用にあります。

一つには優れた音楽ホールと公民館的機能を有するコミュニティ共用施設として併設していることがあげられます。この多様性が町民のプライドの醸成につながり、町民参加型文化事業として成功しています。

また、開館前から運営審議会を発足し、運営のコンセプトを明確にし、芸術監督と音楽専門職員を配置、運営体制面での拡充を図りました。開館以来、シュガーホールが実施してきたユニークな自主創造型事業の代表的なものに著名アーティストの招聘による「鑑賞型事業」、町民ミュージカルによる「町民参加型舞台創造事業」、シュガーホール新人演奏会などの「人材育成事業」があります。その他にも子供文化教育支援プログラムの実施などで、本町の青少年の芸術に対する視野は確実に広がっているとともに、公共施設の有効活用の自治体のひとつのモデルケースとして成功しています。

平成十年度からは、地域に根ざした特色ある芸術文化を創造するために「文化のまちづくり事業」を文化庁と協同で実施しています。こうした芸術文化活動は、佐敷町を内外に広くアピールすることに役立つのみでなく、町民意識の高揚、地域文化の継承、発展に貢献するものであり、将来的には観光や産業振興等にも結びつくものであります。